

沖縄普天間基地の即時撤去と県内移設に反対する県民集会

一言発言

2009年12月23日

集合 石山公園

宗教者9条の会から 難波幸矢

私は、この沢山の実行委員会団体の中の「宗教者9条の会」の一員として参加させていただきました難波幸矢と申します。

11月16日の朝日新聞の「声」欄に採用された投稿記事を読ませていただきます。これは普天間基地の移転を、赤字になっている関空へ持っていったらどうかという3日の「声」欄への投稿に対しての私の意見です。途中から読ませていただきます。「……アメリカの軍事力は強大です。日本や韓国に駐留しなくても、米国本土から世界のどこへでも介入する力を持っていると聞きます。だとすれば、基地機能は本国へ戻せばいいのではないのでしょうか。日本に留まろうとするのは、米国にとっておいしい『思いやり予算』や、日本の国土を基地として自由に使えるからでしょう。在日米軍の再編について、既に日米政府が合意しているといっても『日本では政権が交代したのです。今まで通りにはいきません』と、鳩山首相は米側にはっきりと主張すべきです。武力で平和は造れません。関西空港が膨大な負債を抱え経営難に陥っているからといって『では関空へ』などと簡単に言わないで下さい。アメリカに『自分の国に帰ってください』と言うべきです。」というものです。武力によっては平和は造れません。歴史の真実です。

政権が変わり期待しましたが、なんと鳩山さん、超党派による「新憲法制定議員同盟」の顧問だそうです。会長は中曽根康弘元首相で同じ顧問に安倍晋三元首相なども名前を連ねているそうです。天皇についても「天皇即位20年奉祝委員会」設立総会で挨拶し「憲法改正の議論の中で、『日本国は天皇を元首とする民主主義国家である』と書き込むべきである」と述べ、天皇の元首化を求めたという報道が昨年2008年6月6日にあったそうです。

とても期待できる首相ではないばかりか、先の仕分け作業で気風良くバッサバッサと天下りや渡りさんのために起こした事業を切り捨て彼らが、なんと基地関係になると日本人従業員の賃金に方向をずらしてしまいました。「何これ珍仕分け」でした。かえって危機感を覚えます。

翻ってオバマさんはどうか。これもまた期待を持ちましたが、黒人初の大統領と言えどもアメリカの子でした。「イラクから撤退」発言にさすがと思いきやアフガンに3万人の増派だという。

2000年あたりから、しきりになぜこんなにアメリカは戦争好きなのか。なぜ、なぜと思っていた時に本が出ました。新聞で読んで早速注文したら、「2週間したら日本語訳が出ますけど。」と遠慮そうに言ってくれました。「そっちがいいです。」と答え、2週間待つて手に入れました。「戦争中毒」(ジョエル・アンドレアス著きくちゆみ訳)の中にその答えがありました。マニフェスト・デストニーだということです。「明白なる運命」と訳しています。本の中で、「200年余り前、独立を勝ち取った植民地の指導者たちは、自分たちが北アメリカ全域を支配するように神によって選ばれたと信じた。このことは彼ら指導者にとってごく明白のように思われたので、彼らはこれを明白なる運命、運命顕示と呼んだ。」とあります。それが今や、世界へ「正義の戦い」だと繰り返す当然の使命だと思わせているようですが、ごく一部の武器商人の欲望のためのれっきとした言い訳に過ぎません。

勿論アメリカ人の多くが信仰している聖書にはそんなことは書いていません。「地の果てまで戦いを断ち、弓を砕き、槍を折り、盾を焼き払われる」詩篇46-10とあります。また「剣を取るものは剣で滅びる」マタイ26-52ともあります。どんなに困難でも、自分の国のことは自分の国で話し合いによって解決するしかないのです。他国に介入するのなら、例えば日本が他国に介入するのなら、世界に誇る日本国憲法、特に9条を持ってしかありません。

最後に、もう1600年も前の神学者アウグステイヌスの言葉を紹介して終わります。「悪い時代です。困難な時代です。人々は口々にこう申します。しかし良くいきましょう。そうすれば時代も良くなるでしょう。なぜなら私たちが時代だからです。」私たちが時代なのです。私はこの言葉に曲をつけて歌っています。一人一人が、一市民が時代なのです。頑張っておかしいことをおかしいと言い、行動していきましょう。